



義務年限中に論文を書く意味

☆推薦文☆

外科医を目指す自治卒業生が僻地に勤務する時、手術数の少なさを懸念するのは共通した悩みでしょうか。その不安と戦いながらも、目の前にある状況を大切に、**“今”**自分ができることにベストを尽くす。村岡先生が僻地で実践してきたことです。起こした行動の先に彼が見たものを、これから僻地に勤務する若い先生方と共有することは意義あることと思ひ、推薦させていただきます。

Duke University: 矢野 裕一朗 (宮崎 25 期卒)

宮崎県立延岡病院 整形外科 村岡辰彦 (宮崎県 32 期卒業)

【はじめに】

本日は2019年3月21日、春分の日。あと10日で義務が開けます。この機会に自分の10年間を振り返ってみようと思います。私は平成21年に卒業し、その後10年、宮崎県での地域医療に従事しました(1年間の県外での義務外研修含む)。整形外科を専門としていますが、10年間で整形外科として勤務したのは3年のみで、多くの時間を総合診療医として過ごしました。



【なぜ整形外科に?】

整形外科を目指したきっかけは研修医時の僻地実習での出来事でした。90代の患者が吐気、背部痛で来院されました。強直性脊椎炎の既往があり、圧迫骨折を認めたため、安静目的に入院となり、私は担当医になりました。入院3日目の朝、夜間床に座り込んでいたと報告を受けました。患者はせん妄状態で、バイタルも悪く、胸椎レントゲンで、胸椎が完全に脱臼しており、その後両下肢麻痺があることに気づきました。県立宮崎病院に搬送し、緊急手術となりました。私はたまたまその日が僻地最終日で、翌日から整形外科での研修であったため、少し早めに荷物をまとめ、夕方には県病院に着き、そのまま緊急手術にも入り、整形外科でも担当医となりました。後に調べて行く中で、強直性脊椎炎患者の圧迫骨折はかなり不安定で、手術適応であること知りました。無知は罪であることを痛感し、この症例をきっかけとして整形外科の道を進むことを選択しました。

【僻地勤務】

3年目には有床診療所の副所長として勤務することとなりました。総合診療医として学ぶ事も多く充実した時間を過ごしておりましたが、同年代の整形外科医たちが、どんどん執刀し経験を積んでいく事への焦燥感はずっと持ち続けていました。そんな時、学生時代の地域実習先で25期矢野裕一朗先生に「なにか目的を持って地域に出なさい、そして論文を書きなさい」と言われたことを思い出しました。「腕は磨けないが、頭は鍛えられる」と考え、まずは私が整形外科を選択したきっかけとなった前述の症例を報告、論文化しました。その後、僻地での保存治療の症例や、月数回の県病院での研修日に手術症例を集め、年1回の全国学会での発表と、論文作成を目標とし、実行にうつしました。

【僻地で論文を書くこと】

僻地では整形の症例はないなあと思っていましたが、論文を書いていくことで、視野が広がり、多く

の「気付き」が生まれました。ある意味では僻地は集約化しており、さらに定期的なフォローアップが可能であることがわかり、学会発表や、論文作成のペースは増えていきました。最近では年1回の海外学会、年3回以上の全国学会、年3編以上の論文・雑誌作成を目標にしています。この10年間ですべて日本語論文ではありますが、雑誌掲載を合わせると16編（掲載待ち3編を含む）を書きあげました。また、海外学会でもポスター発表をさせていただき、ベストポスターは逃したものの、ノミネートされるまで行きました。その発表内容は、「橈骨遠位端骨折の徒手整復位評価を超音波を用いて行う」というもので、僻地での症例をもとに作成したものです。

【論文を書くことのメリット】

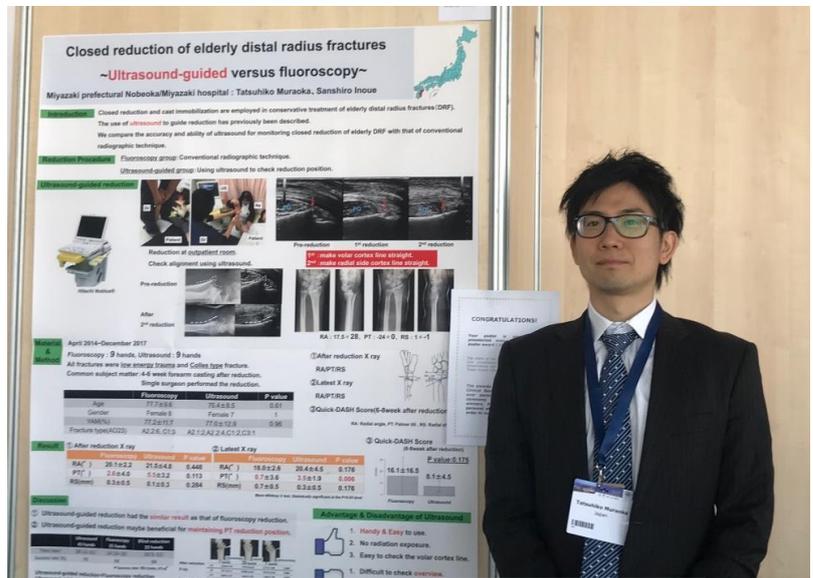
前述通り、私の整形外科医としての経歴は3年で、医師10年目時点で専門医もとれておりませんが、学会発表、論文執筆をしたことで、多くの著名な医師と知り合いになることができました。最近では講演や発表の依頼も来るようになり、今年度からは重度四肢外傷、宮崎県世話人もしております。医局に属していない私にとって、このコネクションの持つ意味はかなり大きいです。

【最後に】

実は…CRSTの存在は最近になって意識しました。もっと早くに知っていたら、一人で悩む時間は少なくなっただけかもしれないし、英語論文を書けたのかもしれない。ただ、一人で悩んだあの時間はあれで意味があったのかなあとも思っています。また、論文を書くきっかけを与えてくださった矢野裕一郎先生とは、学生時代の地域実習の数日しか話したことがなく、あまり顔も思い出せないのですが（笑）、先生の言葉で私の今はあるのだと思っています。宮崎県は現在も医師不足が切迫しており、義務年限内に専門医を取ることはできません。そのため、多くの悩める後輩がいます。私は彼らに「なにか目的を持って地域に出なさい、そして論文を書きなさい」という言葉をあたかも自分の言葉かのように伝えています。



医師4年目 日本3大秘境の一つ椎葉村



2018年ECTES@スペインでBest posterにNominate

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ★ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介します
- ★ 自薦・他薦を問いません
- ★ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

〔発行〕自治医科大学大学院医学研究科
 地域医療オープンラボ運営委員会
 事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
 TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>